

道東地区教会連合会機関誌



道東 36 こ う ほ う 光 報



'DŌTŌKŌHŌ', Newsletter of KONKOUKYOU East Hokkaido reg., No. 36 Apr., 2016

巻頭言 「ある信奉者」

帯広教会 菊元 満

ダスキン・オビヒロ株式会社が発行しているPR紙に次の言葉が載っていました。



私はうれしい事があると、自分はこのな恵まれてよいのだろうか、心からのお礼を神様に申し上げずにいられないのです。

そうして、お誓いすることは「今後万一、苦しい事やいやな事が起こっても、今のお返しに不平や苦情は申しません」

中略

私は有難かったなアと思っただことは、これを「ご恩を受けた」といつでも忘れずにそのご恩にお礼をしたい・・・

鈴木清一の言葉より

この鈴木清一氏とはどんな人物なのでしょう。神渡良平氏の「敗れざる者」(PHP研究所)に詳しく紹介されています。(以下一部引用。敬称略)



鈴木清一は、愛知県碧南市で生まれ、東京の鈴木家の養子となりました。養母のきわは清一を連れて金光教京橋教会によく参拝していました。

17歳の頃結核性肋膜炎を発病、その後咯血を繰り返しますが、養母と清一の神に一心にすがると信じて、この苦難を乗り越え、学校を卒業し大阪で就職します。

昭和19年に後の「ケント

ク新生舎」を創業しますが、昭和37年、アメリカの会社との資本提携で全株を譲渡してしまいます。

どうせ一度は死んだ命「おかげを受けるなら死んでもままよ」の教えが後の生き方に影響を与えます。

昭和38年大阪で新しい会社を設立、化学ぞうきんで特許を取得し、社名を「ダスキン」とし、大成功をおさめます。

「人を疑わず、人を憎まず、欲を出さず、人様のために働く」そんな考えや人間性は信心から生まれたものではないでしょうか。

自分に関わる全ての人に感謝をする心を持ち続け、

「祈りの経営・拝みあう経営・捨て身の経営」、「損、得の道あらば損の道を行く」等、会社経営の方針や経営理念は信心から学んだのかもしれません。

「はかなきは金銭、頼りなきは地位、人を裁かず、人を恨まず」

自分の至らなさを詫びる心を持ち続けた鈴木清一氏は、死を迎えるにあたり、これまで関わった人達へ感謝とお礼の文を病床でしたため、全国4千名以上の方々にその気持ちを伝え、昭和54年にお亡くなりになりました。

金光教は直信・先覚・先師の多くの先人達の布教によりこの道が広まりました。

一時期「一燈園」の影響

を受けたとはいえ、常に祈りと感謝の心を持って会社経営に当り、従業員を「働きさん」と呼んで大切にされた鈴木清一氏も、また偉大な信奉者の一人だったのかもしれない。

鈴木清一氏の精神は今も全
国のダスキン経営者に受け継がれているといわれます。

感謝の心をつい忘れ、不足の心、愚痴、不平不満が顔を出す私自身を恥じながら、ここに母と同世代を生きた一人の信奉者を紹介させていただきました。

北見教会 布教百年記念大祭

7月3日(日)
午前11時

教会掲示板

教会からあれこれ

帯広教会

帯広市東四条南八丁目四番地
TEL 〇一五五-一三一六八三五
FAX 〇一五五-一三一六八三五

4月中旬、山積みになった雪がなくなり、雪解けと共に新しい草木のいのちが育ってまいりました。教会の境内にも例年とおりの福寿草、クロッカス、アイヌネギ(ぎょうじやんにく)が咲き始めました。天地のはたらき、恵みを感じさせていただいております。

最近、「直葬」や全国で長い間お参りされた形跡がなく、親族、子孫が分からないまま放置されている「無縁墓」が増加しているというのを耳にすることが多くなりました。

先日、70歳代のご婦人の話を聴いておりました。その内

容というのは「先日、三十七回忌を迎えた。一般的には省略するのが多いので、またお経を唱えていただいても解らず、若い住職の話聞いても仕方が無いので三十七回忌はお寺にお願いをせず、私達夫婦でお参りだけしました。ところが、そんなご無礼な考えだったのか分からないが罰あたり、手首を折ってしまっただ。改めて住職にお願いをして供養をしていただいた」ということです。

笑い話のようなであります。が、身近なこととしてあります。このように私達宗教者も色々なことで資質を問われていると思います。実際に法事のありかた、葬儀に対する考え方も変貌しつつあります。宗教学者の島田裕巳氏は「葬式は、要らない」に続き、むしろ無理な人間関係作りを

煩わしいと感じ、無縁化してきたのが都市の人々。そうした人たちになつた葬送も必要になる」として、今度は『0（ゼロ）葬』（集英社）を著した。簡素な葬儀どころか遺骨すら引き取らないという、究極の葬送を提案する書を刊行した。（平成26年5月5日 読売新聞）。

今2050年問題がありま
す。人口が一億人を切り、高
齢化（3人に1人が高齢者）
そして極めて急激な人口減
少社会を迎える日本となると
されています。

家の宗教から個の宗教に変
わりつつあるように将来の社
会の価値観、見失われた宗教
意識を考えたとき、いま必要
なのは原点回帰と思います。
決して物のない時代、不便な
昔に帰るといふ否定的ではな
く、進歩的な教祖様の教え、

生き方そして生かされ生きて
いるということを現代にどう
のように現すか、さらにたと
えば言葉であるが「JT」「M
T」という表現がいいのか、
神様の道理に合う生き方を今
日的に現すにはどうすること
なのかなど今から求め、自ら
が涵養かんようしていくことしかない
と思う。先送りしては手
遅れになると思われます。

今年の桜は早いようです。
大祭時には境内の桜を見るこ
とができれば良いと思いま
す。（田中）

釧路教会

釧路市宮本一丁目五番二二号
TEL 〇一五七―四四―一三三―五
FAX 〇一五七―四四―一三三―六

『ヒトの遺伝子操作』

朝日新聞の4月9日付けの
電子版に、「ヒトの受精卵の
遺伝子操作、中国チームが論
文発表 2例目」という記事

が載っていた。

ゲノム編集は、ヒトの受精
卵を改変すると、その遺伝子
が次世代に引き継がれる可能
性があり、倫理的な問題が指
摘されている。米英中の科学
者を中心とした国際会議で昨
年12月、子宮に戻さないこと
を前提に基礎研究を認める声
明がまとまった。（中略）

石井哲也・北海道大教授（生
命倫理学）は「今後、ヒト受
精卵を改変させる研究は増え
ていくだろうが、その実施は
極めて慎重でなければならな
い。ヒト受精卵でなければで
きない研究なのか、医学的に
本当に必要な研究なのか、議
論を尽くすべきだ」と話す。

この記事を読みながら、医
療も含めて人間の科学技術
は、人間の倫理を超えて、ヒ
トのデザイナーベビーの誕生
の一手手前まで来ている。

かなりの部分、先進諸国の
技術が蔓延まんえんして、後進諸
国は先進諸国を越えるため、
こういった人間の倫理を超え
て、前進しようとしていると
ころがありそうです。

金光大神を学ぶ我々は、天
地に働きの微細なところにも
でも働いている驚きと、石井
北大教授のように、ヒト受精
卵でなければできない研究な
のか、医学的に本当に必要な
研究なのかを含めて、宗教者
として考え、協議していくこ
とが大切だろう。（江郷）

北見教会

北見市寿町三丁目五番一号
TEL 〇一五七―二四―七四七―四
FAX 〇一五七―二四―七四七―四

3月26日、北海道新幹線が
開業しました。一番列車の貴
重なチケットを手乗り込む
人達の喜びと、これからの賑

わいを期待する地元の盛り上がりが多く、のニュースに取り上げられました。ここに至るまでに苦労を重ねた人々の感慨はさぞ深いものがあつたとでしょう。

しかし、連絡船の汽笛の音に慣れ親しんだ函館育ちの私にとつて、それは御祝いよりも様々な過去を呼び覚ます出来事でした。演歌にも歌われた連絡船はすでに役目を終え、旅情をかき立てる夜行列車や多くの思い出を残した寝台列車も廃止、戻ることの出来ない日々を懐かしみながら、かつて最果てといわれる北の大地を目指した先師達の大きな決意とその信心に思いを巡らせました。

すべての変化が秒速で進んでいく中で人の心も生き方も変わりつつある今、求められる信心とは、私達が為すべ

き事は何かを考えさせられます。先師達のご苦労を重ねて歩まれた道をただなぞるだけになつていないかなどの反省と共に、布教百年を迎えた北見教会の過去を生かす「これからの信心」を求めなければと思つていきます。

おかげを頂き、広前改修の記念事業も予定通りに終えることが出来ましたので、百年祭は教会でお仕えることに致しました。行き届かぬことが多々あるかと思ひますが、皆様のご参拝を頂けましたら有り難いことです。(矢代)

十勝教会

池田町旭町一丁目九番地二二
TEL 〇一五五七一一二二三二
FAX 〇一五五七一一四二二三

今年、初代教会長・玉置藤太先生がお亡くなりになつてちょうど九十年になります。初代先生が同郷の信者さん

のお手引きで、札幌におられた(元)気仙沼教会長・渡辺丑五郎先生のもとで金光教に入信されたのが大正二年、その後、一信者として布教や講社の世話役としてのご用をされていましたが、大正八年には金光教教師になられ、翌大正九年に教会を設立されます。

入信から七年ほどで教会を設立するまでになつたのですから、当時の初代先生の信仰へのパワーはどれほどのものであつたのかと今更ながらに思わされます。さらにそこには初代先生だけではなく、「この地に金光教の広前を」と願われた当時の信者さんたちの強い願いがあつたのです。

のご遺志もありましたが、他の信者さんたちの勧めもあり、初代が金光教の教師になることとなつたのです。

当時、初代先生が御本部で修行される際の旅費などは、当時信者のみで組織していた「講」の会費の中から出されています。そのようなことを見ると、教会設立当時、初代は信者さんたちの代表として御本部へ行かれ、送り出す側も自分たちの代表として御本部へ行ってもらう、ということがあつたのではないかと勝手に推測しております。

その教会ができて今年で九十六年を迎えました。九十六年前、この地に広前を作つたのは教会長と信者さんたちです。どちらか一方ではありません。九十六年を経た今も、天地の広前の役割を担うのは、教師だけではなく在

籍の信者さんたちです。みながお互いの手代わりとして、天地金乃神様のご用を仕える広前にならせていただきたいものです。
(玉置)

網走教会

網走市北四条西一丁目六番地
TEL 〇一五二四三二九五四
FAX 〇一五二四三二九五四

滝上教会

紋別郡滝上町元町士別通り

信仰の世界ではしばしば常識を越えた先に、あるいは常識とかけ離れたところに助かりの世界が広がっていたりすることがあります。もちろんただ非常識に振る舞うということではなく、神様を信じて、神様を頼りにその先へ飛び込むということなのです。不可能を可能にする原動力は、神様を信じる力にあります。

ある方の体験で、仮にAさ

んとしましょう。Aさんは、若い時に事業を起こし今日におかげを蒙っておられる方で、まだその駆け出しのころだったといえます。教会に参拝して先生と仕事の話などしているとき、先生はおもむろに火鉢のふちに火箸を渡し、「ここに一本の橋が架かっていたとして一人しか通れませんかもしあなたがそこを渡っているとして、向こうから人が渡ってきたら、その時あなたは橋から飛び降りなさい」(何かで読み覚えていたことなので、文言などは正確ではありません)ということを言われたそうです。

Aさんは、先生のその言葉がずっと耳に残っていて、今日までのことを振り返ってみると「我先に」「他を蹴落として」ということではなく、時には人に道を譲るといっ

うなことでおかげを蒙ってきたことを何かのことで書いておられました。

ソ連の崩壊に代表されるごとく、平等で平和な世界を築こうとした社会主義はもはや衰退し、中国でさえも経済は資本主義をとるなど、もはやその色分けさえできない状態を呈しています。それほど他と競争して勝つには資本主義によるところが大きいということなのでしよう。わが国において、年功序列は廃され実力主義が主軸をなし、激化の一途をたどる競争社会の中で、前述したAさんの生き方、事業の運営はまさに非常識でありましよう。生き馬の目を抜くという諺がありますが、すばしっこく人を出し抜き、抜け目ないあり方が現代社会の常識のようです。

ところがどうでしょう。そ

うした抜け目なく、人を出し抜き生きていくその周囲、あるいはその後ろには、一部には幸を生み出すということもありましよう、ですが出し抜かれた人をはじめ多くの不幸をも生み出し、今の社会が抱える問題の大半がそのことに起因しているとの見方もおおかた間違いではないように思われます。つまり自分だけが幸せになる、自分さえ良ければ、という生き方となってしまうと、そこから多くの難儀が生まれてきていくというのです。残念なことにそれが現代における常識の生み出す結果となってしまうます。

たとえば、そうした競争社会であつても、Aさんのように「我人ともに助かる」生き方でおかげを蒙って来た人が、この金光の道には沢山おられ

ます。

私はAさんのエピソードを
読みながら、ふとある人物を
思い浮かべました。我が家の
家計も苦しいのに、次から次
へと行き場を失った親戚の子
供や難儀な家族を預かり、「預

かれば一番に根をあげるの
おっかささんじゃないか」と子
供に指摘されながらも、「根
をあげながらも預かった方
が、見捨てるよりはいい」、
見捨ててしまえば自分が助か
らないとしてやってのけた祖
母のことです。

祖母は、若くして夫を亡く
し、待つてましたとばかりに
婚家を追い出されます。そう
して再度嫁ぐわけですが、そ
こは貧乏極まりない菊川の家
でした。そんな中、戦争がは
じまり疎開先の当てのないあ
る家族を預かることになりま
す。元の婚家の義理の弟家族

です。自分を冷たくあしらつ
た家の者さえも見捨てること
なく受け入れていく、その祖
母の心には常に天地の親神様
がついていて、信仰の声なき
声に忠実であろうとしていた
ように思います。

祖母のそうした生き方を、
子供である大阪の叔父は、「変
わった生き方をしてみません
か」という題で、ご本部の大
祭で講話したといっています。祖
母の歩んだ後には多くの救い
が生まれてきました。江田教
会は、九州の過疎化する片田
舎に、今なお堂々とした構え

と多くの信奉者を有していま
す。常識を越えた助かりの世
界に導かれた結果だと言いま
す。

ところが、立教から百五十
年が過ぎ、わが道も常識の範
囲の中での信仰にとどまる風
潮がようやくやくはびこってきま

した。信仰の常識化といいま
すか、世間一般の考え方、価
値観に迎合する向きが増えて
きたように感じます。言い換
えれば、神様を信じる力が弱
まってきたということでしょう。
今教団の抱える問題とし

て、教会数、教師数、信奉者
数の減少に教団の危機が叫
ばれるようになってきました
が、そうした物理的な危機の
根底にあるのが、神様を信じ
る力が弱まるというもつとも
危惧せねばならない信仰の危
機といったものがあるのでは
ないでしょうか。

と、ここまで書き進めて、
じゃあ、そんなお前はどう
なんだとの声が聞こえてきま
す。心引き締めてご用に当た
らねば、親しい友人などから

は、お前がもつとも危惧され
るんじゃないの！と突っ込ま
れそうです。
(菊川)

道東地区各教会 大祭日程
春 秋

釧路	5月29日(日)	10月16日(日)
北見	7月3日(日)	11月3日(祝)
十勝	4月17日(日)	11月20日(日)
帯広	4月24日(日)	11月6日(日)
網走	5月22日(日)	10月23日(日)
滝上	6月5日(日)	10月30日(日)

道東地区教会連合会交流会

- ・6月11日(土) 帯広市
- 道東地区教会連合会研修会
- ・6月12日(日) 帯広教会

今年はパークゴルフのかわりに交
流会(工場見学や懇親会)を予定
しています!

※詳細は改めてご案内します!